

氏 名：小澤 知子
学 位 の 種 類：博士(看護学)
学 位 記 番 号：博看護第9号
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
学位論文題目：組織変革移行段階において、看護部長が果たした連結ピンとしての機能に関する研究
研究指導教員：坂本 すが
研究副指導教員：宮本 千津子
論文審査委員：(主査)廣島 麻揚 (副査)末永 由理
(委員)谷本 真理子 (学外審査委員)荒木 暁子

論文審査結果の要旨

小澤知子氏の博士論文は、4名の審査委員によって、書面による審査及び口頭試問によって厳正に審査された。

本報は、組織変革移行段階に、幹部および看護部門という2つの集団に属する看護部長が、組織の中でどのように各階層の職員に働きかけ、連結ピンとしての機能を果たし、組織変革へ取り組んだのかを明らかにしたものである。

本報は、事例研究である。看護部長を取り巻くシステムや状況を1フィールドと捉え、その文脈の中の現象にかかわる人として看護部長、病院長、経営幹部4名、副看護部長2名を研究対象としている。研究対象への半構造的インタビューの結果(逐語録)および資料を質的記述的分析とエスノグラフィーを参考とした方法を用いて整理し、組織変革移行段階において、看護部長が果たした連結ピンとしての機能を明らかにしている。

働き方改革への取り組みを通して、組織変革移行段階に看護部長の果たした連結ピンの機能について、以下、7つの機能を抽出している。【意思決定を導く調整】【支持的関係の維持】【柔軟なアップダウンの発揮】【方針を実務へつなげる】【社会的ネットワークの構築と活用】【創発的な働き方の支援】【組織運営担い手の先を見通す】

今後起こりうる病院の組織変革において、看護部長の機能をさらに強化し、強い組織づくりに貢献する示唆を与えうる論文であり、重要な研究と判断できる。また看護部長だけでなく、病院長、経営幹部など異なる立場の対象者からもデータ収集をしており、連結ピンという双方向的な機能を検討する上で貴重な研究方法を使っていることは高く評価できる。以上より、本研究を「博士論文として認定できる」と判断する。

令和7年 2月 26日

論文審査委員(主査) 廣島 麻揚